

# 施設の変化

## B1F 収蔵庫前室

収蔵庫内は、床板が水を吸って隆起し危険な状態だったため、まず床板の張り直しを行い、搬出に向けた準備を整えた。



## B1F エレベーターホール前通路

収蔵庫から収蔵品を運び出す搬出ルートの確保のために、散乱した物の撤去と清掃を行った。



## B1F 第1収蔵庫 (民俗)

カビの拡散防止のため被災直後は一時的に閉鎖し、翌年1月より本格的なレスキュー作業を開始した。運び出した収蔵品は、水洗やエタノールでの消毒を行ったあと順次乾燥させていった。



## B1F 第3収蔵庫 (歴史)

床に散乱した文書類を救出後、床を張り替えて、搬出を行った。収蔵品を置いていた棚は一旦解体した上でローディングに移設し、仮保管場所として活用した。



### ■ B1F 第4収蔵庫 (美術文芸)

通路を塞いでいた書籍や雑誌類を運び出しながら、めくれ上がった床板の張り替えを行い、搬出ルートを確認した。



### ■ B1F 第7収蔵庫 (グラフィック)

グラフィック作品の多くは、額や引き出しに入れられた状態で保管されていたため、額を順次運び出し、額装を外していった。引き出しに入った状態で固着した作品は、整理室に設置したプールを使い剥離作業を行った。



### ■ B1F 第8収蔵庫 (写真、漫画、映画、映像)

可動棚が動かなくなっていたため、棚を解体しつつ収蔵品の搬出を行った。搬出後は博物資料などの仮置き場としても使用した。



### ■ B1F 荷解梱包室 (ローディング・搬入口)

収蔵品から取り外した外箱、包紙等の廃棄場所として使用。その後応急処置を終えた民具の一時保管場所などに活用した。



## B1F 整理室

棚や机などを運び出し、清掃を行い、収蔵品の応急処置を行う作業場として活用した。



## 1F 中庭

台風によって外壁パネルが剥がれる等の被害があった。11月にはバリケードの設置、仮設ユニットハウスの建設、12月には冷蔵・冷凍コンテナの設置を行った。



## 1F ラウンジ

被災当初、施設機能が限られていたため学芸室を1階ラウンジへと移設した。その後は、レスキュー作業のために燻蒸庫や紙資料の応急処置を行う作業場として活用した。



## 3F 研修室

被災直後は、洗浄した写真の乾燥場所として、その後は映画フィルムの応急処置・保管場所として活用した。



## レスキュー発信プロジェクト

# 川崎市市民ミュージアム被災収蔵品レスキューの記録

本プロジェクトは、被災後の当館の活動を多くの方に知っていただくことを目的に、収蔵品レスキューの記録を、映像や文章などさまざまなメディアを用いて、2020年12月より当館のウェブサイトにて発信を開始しました。

当館では被災直後から現在まで、たくさんの困難に直面してきました。山積する問題に、多くの支援団体と解決に向けた取り組みを続けています。それぞれの課題の解決には、阪神・淡路大震災や東日本大震災といった、過去の文化財レスキュー事例に携わった方々や、そこで蓄積されたノウハウが活かされています。

当館の収蔵品レスキューにおいても、すでにさまざまな知見が得られており、こうした記録を広く共有し、次世代へと継承することは、支援を受けた当館の使命だと考えております。

これらの公開を通じて、今後の文化財の保全と防災のために、学び、考える機会となれば幸いです。



川崎市市民ミュージアム被災収蔵品レスキューの記録  
トップページ (<https://www.kawasaki-museum.jp/rescue/>)



---

映像ドキュメンタリー  
川崎市市民ミュージアム 被災収蔵品レスキューの映像記録 —2019.10.12—

---

この映像は、被災してから1年間の活動をドキュメンタリーとしてまとめたものです。多分野にわたる膨大な収蔵品をもつ当館において、台風がどのような被害をもたらし、水没した収蔵品を救い出す試みがどのように進められてきたのか。関係者が撮影した映像や画像を用いてレスキュー活動のあゆみをご紹介します。



川崎市市民ミュージアム 被災収蔵品レスキューの映像記録 —2019.10.12—  
(<https://www.kawasaki-museum.jp/rescue/movie/>)



---

連載企画

◇関係者コメントの記録 ◇被災収蔵品処置の記録 —収蔵品を追う—

---

当館の被災収蔵品レスキュー活動は、さまざまな団体から多くの方々の協力や専門的な技術提供を受けて進めてまいりました。連載企画「関係者コメントの記録」では、レスキュー作業に関わった方々と職員のコメンタリーを紹介し、被災してからの当館の活動やどのような人々がレスキュー活動に関わってきたのかをお伝えしていきます。もう一つの連載企画「被災収蔵品処置の記録 —収蔵品を追う—」では、当館の収蔵品を紹介すると同時に、収蔵品に施した処置をお見せしながら、作品・資料の保存や修復についてご説明いたします。



連載企画 川崎市市民ミュージアム被災収蔵品レスキューの記録  
トップページ ([https://www.kawasaki-museum.jp/rescue/rescue\\_archive/](https://www.kawasaki-museum.jp/rescue/rescue_archive/))



# 謝 辞

皆様に心より感謝の意を表します。(順不同・敬称略)

## 川崎市からの要請によりレスキュー作業を行っていただきました団体

国土交通省 関東地方整備局

国土交通省 中部地方整備局

一般社団法人国宝修理装演師連盟

国立国会図書館

一般社団法人全国美術館会議

全国歴史民俗系博物館協議会

公益社団法人日本図書館協会

神奈川県博物館協会

公益財団法人日本博物館協会

神奈川地域資料保全ネットワーク

大学共同利用機関法人人間文化研究機構

学校法人帝京大学

特定非営利活動法人文化財保存支援機構 (NPO JCP)

東京大学史料編纂所

独立行政法人国立美術館

学校法人専門学校東洋美術学校

独立行政法人国立文化財機構

日本大学芸術学部写真学科

文化庁

独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所

一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所

大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館

独立行政法人国立文化財機構 京都国立博物館

大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国立民族学博物館

独立行政法人国立文化財機構 九州国立博物館

特定非営利活動法人映画保存協会 災害対策部

独立行政法人国立美術館 国立映画アーカイブ

特定非営利活動法人カビ相談センター

独立行政法人国立美術館 国立西洋美術館

独立行政法人国立文化財機構 文化財防災ネットワーク推進室

独立行政法人国際交流基金

独立行政法人国立文化財機構 文化財防災センター

独立行政法人国立公文書館

女子美術大学染織文化資源研究所

日本大学芸術学部映画学科

日本映画大学

岩手県立美術館

東京都江戸東京博物館

神奈川県立近代美術館

東京都公文書館

神奈川県立歴史博物館

東京都写真美術館

熊本県博物館ネットワークセンター

福岡市美術館

埼玉県立近代美術館

南足柄市文化会館

千葉市美術館

和歌山県立博物館

株式会社足柄製作所

ザ・ダークルーム・インターナショナル

イカリ消毒株式会社

自家焙煎珈琲 琥珀堂

株式会社IMAGICA Lab.

有限会社修復研究所21

株式会社大山組

株式会社寿限無

有限会社オフィスガイズ

白岩修復工房

株式会社絵画保存研究所

株式会社資料保存器材

関東港業株式会社

有限会社鈴木映画

共進倉庫株式会社

株式会社丹青研究所

東映株式会社デジタルセンター  
寺田倉庫株式会社  
TERRADA ART ASSIST 株式会社  
株式会社ディヴオート  
株式会社東京現像所  
株式会社東京光音  
奈良市場冷蔵株式会社  
日本ファイリング株式会社

日本プロセス秀英堂株式会社  
有限会社根本  
ハンナインストルメンツ・ジャパン株式会社  
PGI  
ブランジェリー パリジェンヌ  
株式会社堀内カラー  
ヤマトグローバルロジスティクスジャパン株式会社  
早稲田システム開発株式会社

大津波被災文化財保存修復連携プロジェクト  
十日町市古文書整理ボランティア  
十日町市教育委員会

全国美術館会議 理事会有志  
和歌山県立博物館等施設活性化事業実行委員会

佐川 美智子  
櫻井 齊人  
佐々木 果  
鈴木 伸和  
田澤 宏和  
中込 仁玲  
野田 謙介

浜田 拓志  
深川 雅文  
三木 麻里  
森宗 厚子  
吉田 成  
吉村 麗  
Katherine Lunduy

特定非営利活動法人文化財保存支援機構 (NPO JCP) ボランティア  
粟生田 弓  
稲葉 一樹  
小野瀬 聡美

北村 真理  
木本 洋祐  
鈴木 香理

## 被災収蔵品レスキュースタッフ

指定管理者

アクティオ・東急コミュニティー共同事業体

[ アクティオ株式会社 ]

統括館長 鈴木 健一  
館長 大野 正勝  
副館長 林 司(～2020年4月)  
副館長 丸山 圭  
副館長兼学芸部門長 佐藤 美子

学芸部門

教育普及部門長 氏家 みちえ

池川 佳宏  
貝塚 建  
誉田 あゆみ  
定森 裕太郎  
杉浦 央子  
鈴木 勇一郎  
高橋 多瑛子(～2020年3月)  
谷 拓馬  
中西 香南子  
中野 可南子  
奈良本 真紀  
新美 琢真  
林 花音  
村岡 由佳子  
村山 翠(～2020年3月)  
安尾 祥子  
吉川 貴子(～2020年3月)

総務・広報部門

部門長 鋒山 元茂  
特任総務部門長 西野 サカミ  
石澤 千夏  
大久保 誠二  
久保 愛佑美  
澤口 恭子  
滝口 真央  
武田 智子  
竹本 はるか  
飯塚 美樹 非常勤  
丸山 幸江 非常勤

[ 株式会社東急コミュニティー ]

竹崎 翼  
阿部 俊幸  
池田 智彦  
芝原 節夫  
中島 航  
新田 巖

[ 株式会社シグマコミュニケーションズ ]

鈴木 義和

[ 有限会社オフィスガイズ ]

北原 勝紀  
秋山 幹  
天谷 洋祐  
大関 浩幸  
亀上 妹以子  
佐々木 弦一  
内藤 のりひさ  
野村 誠  
影井 建哉  
小藪 優人  
古谷 亜美  
宮崎 かなえ

[ 川崎市市民ミュージアム アルバイト ]

秋元 エマ 杉田 真也  
上田 あゆみ 杉山 亜美  
薄井 悠介 田原 康夫  
遠藤 尚子 出口 夏子  
川名 瑞希 富重 聡子  
菊地 悠介 早見 紗也佳  
北川 恵海 細田 理恵  
北堀 あすみ 堀田 文  
北村 真理 村木 恵里  
佐藤 友則 村瀬 世津子  
篠田 俊寛 渡邊 進也

2020年度

## 川崎市市民ミュージアム 被災収蔵品レスキューの記録集

---

### 企画・編集

安尾 祥子      竹本 はるか  
滝口 真央      新美 琢真  
久保 愛佑美   林 花音

### 編集協力

独立行政法人国立文化財機構  
担当／奈良文化財研究所 浜田 拓志

### 画像協力

柴田 敏雄  
伊奈 英次  
池田 葉子  
調布市武者小路実篤記念館（全国美術館会議）  
森絵画保存修復工房

### デザイン

佐藤 未来 (39s kitchen)

### 発行

川崎市市民ミュージアム  
〒211-0052  
神奈川県川崎市中原区等々力1-2  
電話 044-754-4500

### 発行日

2021/3/31

\* 本冊子は第31回(2020年度)タカシマヤ文化基金の助成を受けて製作したものです。

